

染織ワーキング部会の検討状況

令和7年3月



2. 製作物別の進捗状況（概要）

・染織WG部会における製作物別の進捗状況は、下表の通りである。

番号	製作物名称	国への引渡期限	新たな知見	状況
32	垂飾	令和8年7月頃	・琉球古刺繍事例（鎌倉芳太郎資料含む）及びその他刺繍事例等	刺繍は本製作中 飾玉等は試作中

■特記仕様 ※青字:国からの仕様から追加・修正した箇所

①寸法(全体) 横 3,627mm×縦 380mm (飾玉含む) : 一具

・布地: 横 3,760mm×縦 240mm

・飾玉: 横 213.4mm×縦 130~140mm (円弧1個あたり)、円弧の数17個

②材料・製法

・刺繍基布: 絹製赤色縹子布(7枚縹子織/地模様無し)

・刺繍糸: 絹糸 (雲文: 赤・青・黄・白・黒の5色/琉球古刺繍)

・金糸: 金糸4号山吹、純金1号 (龍文・火焰宝珠文)

・飾玉: 【大玉】鉛ガラス製 (赤色/直径10mm内外/巻上技法)

【小玉】鉛ガラス製 (赤・青(緑)・黄・白・黒の5色/
直径7mm内外/巻上技法)

※2枚製作し、背中合わせにして両表面とする



琉球古刺繍保存会による瑞雲文の刺繍作業および監修 (R6.10.7)

熟練技術者による龍文の刺繍作業 (左R6.12.9 右R7.2.4)

3. 下絵と刺繍作業の製作状況

【参考】平成復元時

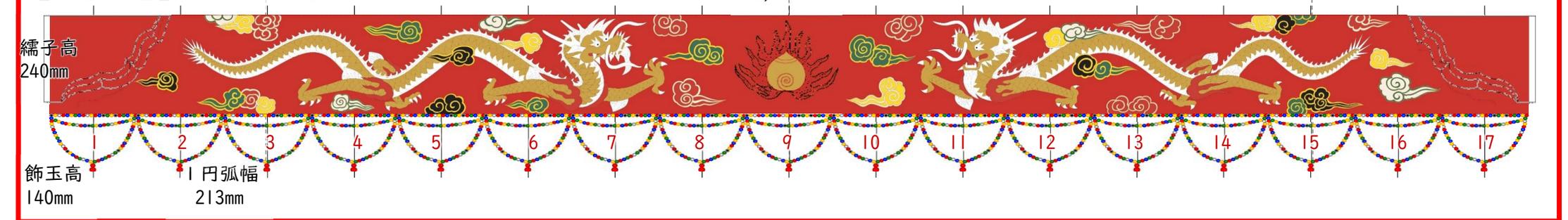
[咩]黄4青4白1赤5黒5 [阿]黄4青4白3赤5黒5 計40個



【瑞雲配色】左右非対称

3,627mm

[咩]黄3青4白3赤4黒3 [阿]黄4青4白2赤4黒3 計34個



【刺繍作業】瑞雲文R6.7-R7.3 龍文R6.6-R7冬 火焰宝珠文R7年中

【龍文・瑞雲文】

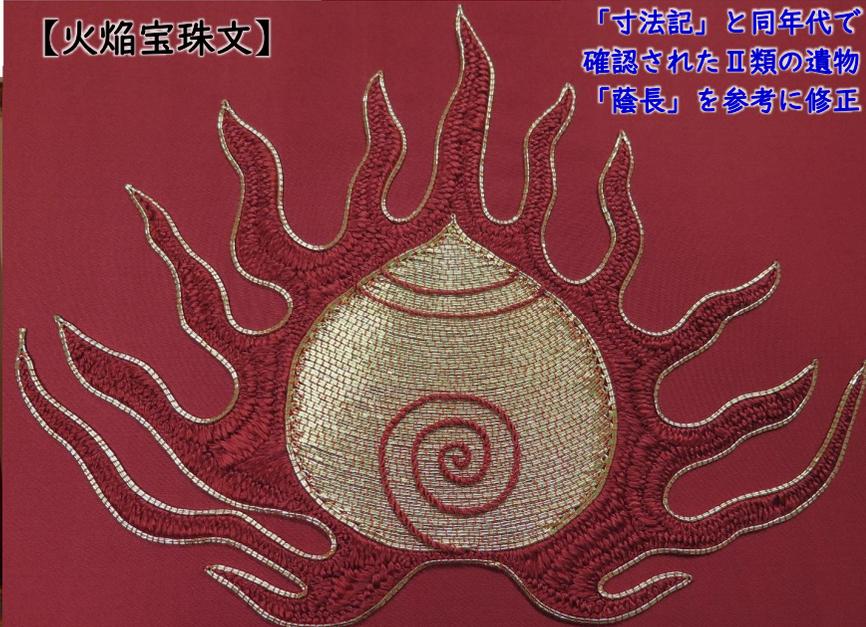
琉球古刺繍および金糸繡による本製作作業に合わせ
瑞雲文は切り詰め前の仮配置で確認



咩形 本製作 (R7.3.6)

【火焰宝珠文】

「寸法記」と同年代で
確認されたⅡ類の遺物
「蔭長」を参考に修正



部分試作 (R7.2.25)

4. 飾玉（試作）の進捗状況

ガラス玉5色の色調

- 国提供仕様を参考に、5色（青は水～緑）とした。
- 色調は、琉球王国事例のうち、那覇市所蔵の尚家資料「御玉貫」を参考。

検討：色調の幅の設定

- これまでに琉球王国時代の文化財復元事業で製作したガラス45種を「御玉貫」と照合し、5色の色調の範囲を設定。（右写真）



ガラス玉5色の配色

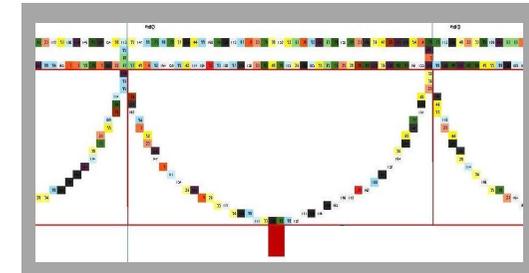
- 玉の配色として、吊下げる装飾物の琉球王国の残存事例である「日光東照宮 小灯籠 瓔珞」の不規則な配列を参考。

検討：不規則配列の実施

- 「日光東照宮 小灯籠 瓔珞」の配列をそのまま並べると違和感があるので、その比率をもとに計算ソフトにて機械的に不規則配列図案を作成。
- 色の偏りが一部に生じるなどがあった際、監修者等による人的補正を加えてパターン化の解消を図る。



木製笠付き花形瓔珞（日光東照宮宝物館）
 画像：『沖縄のガラス・玉等製品関係資料調査報告書』2011年3月、沖縄県教育委員会



計算ソフト作成の不規則配列案（部分）

飾玉の見栄え

検討：見栄えの調整

- 光の透過が強い印象等があったため、本製作では白・黄を減、不透明の青(緑)・黒を増とする方向や、青(水)に乳白色を混ぜて透明度を落とすこと等を確認。

検討：2列目を真っすぐ張る

- 「寸法記」では、飾玉1列目と2列目ともに横に真っすぐ張る表現。
- 試作6円弧で引張り具合を確認。

- 正殿照明実験（2024.11.12）では1円弧、第8回染織Wワーキング部会2025.2.25）では6円弧を試作し、見栄え等を確認。



正殿照明実験（R6.11.12）
 →光の透過が強い白や黄を減



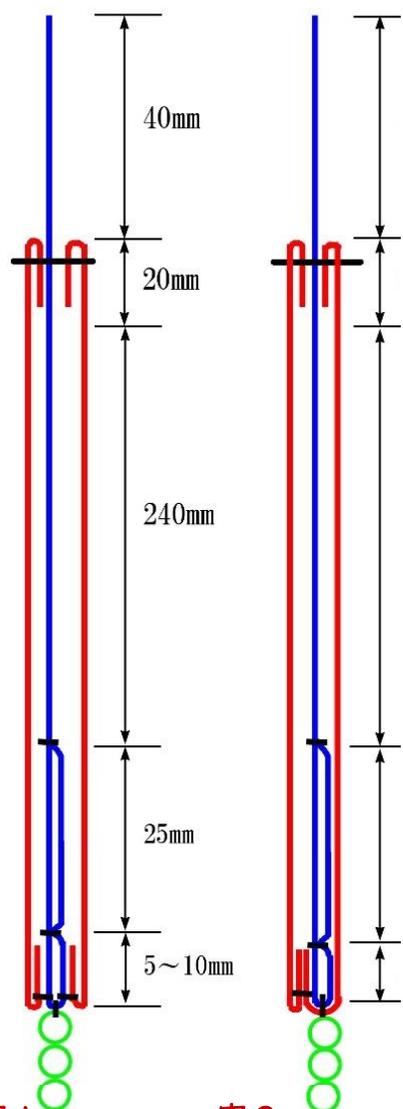
第8回染織ワーキング部会（R7.2.25）
 →青(水)に乳白色を混ぜて透明度を落とす
 →2列目の引っ張り具合は両端で若干は調整可能

5. 構造仕立て・正殿設置検討（試作）の進捗状況

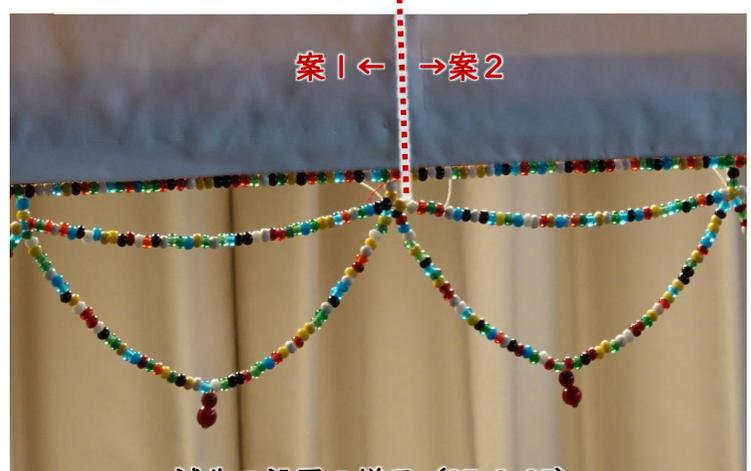
飾玉の布地への縫付け方法

試作による方向性

- 飾玉を内布の帆布に直縫いする案1により、縹子に縫いシワが発生せず、飾玉の縫付けの确实性向上、縹子布への刺繍作業期間の延長、メンテナンス性でも有利であることを確認。



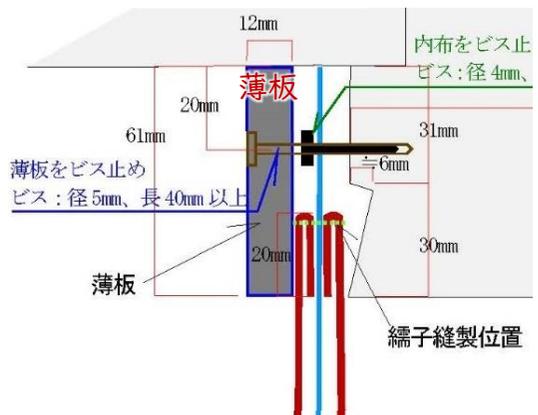
案1 帆布に直縫い
案2 縹子布と帆布に縫込み



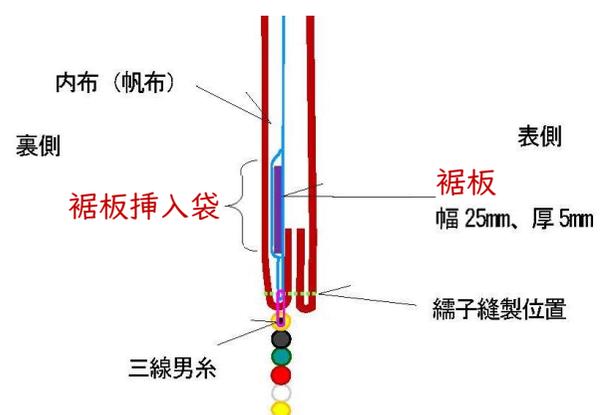
布地をシワなく張る方法

試作による方向性

- 布地の上下端をより水平で、左右にきちんと張って見せるため、布地上端は薄板に挟み込んで貫（額木）にビス留めする構造、布地下端は内布に袋をつくり内部に裾板（杉 5mm厚、角は面取り）を仕込む構造を確認。



布地上端の構造断面イメージ



垂飾下端の構造断面イメージ



裾板及び袋の試作の様子 (R7.2.25)